

1, 道具の用意

失敗が起きないようにまず道具を確かめます。

- 紙コップ(用意してください)
- 爪楊枝(用意してください)
- きれいな紙(用意してください)
- 時計
- 木づちまたは金づち(用意してください)
- 遺伝子組換えナタネ検査セット
(チューブ、試験紙3種類、蒸留水)

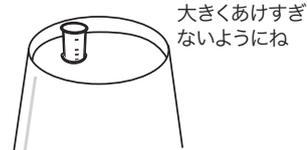
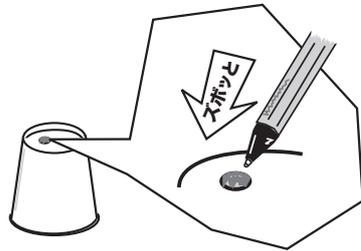


実験は清潔な手でおこないましょう



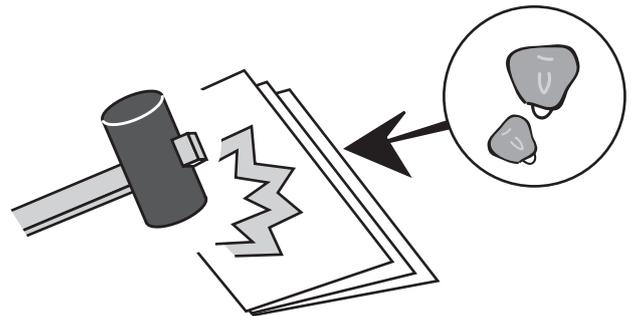
2, チューブスタンドを作る

紙コップの底にボールペンなどで穴を開け、チューブをたてます。



3, サンプルを紙にくるんでつぶす

調べたいトウモロコシを紙にくるんだら、金づちなどで叩いてつぶします。強く叩きすぎると紙が破れて中身が飛び出しますので注意します。



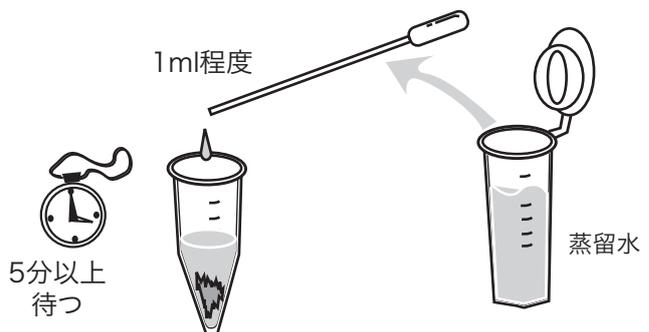
4, つぶれたサンプルをいれる

つぶれて粉々になったサンプルを、こぼさないよう慎重にチューブへ注ぎ込みます。あまりいれすぎないようにします。いれすぎると蒸留水が入らなくなってしまいます。



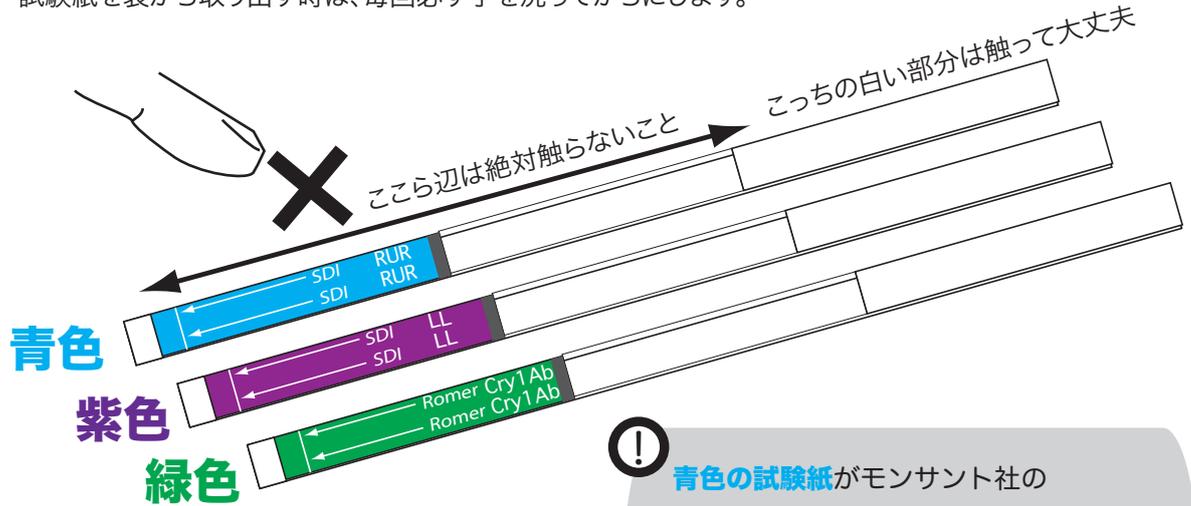
5, 蒸留水を入れる

スポイトでチューブに蒸留水を入れます。1.0mlぐらいまで入れてください。蒸留水を入れたら、爪楊枝で良くかき混ぜます。必ず**5分間以上室温で放置**し、成分が溶け出してくるのを待ちます。



6, 試験紙を取り出す

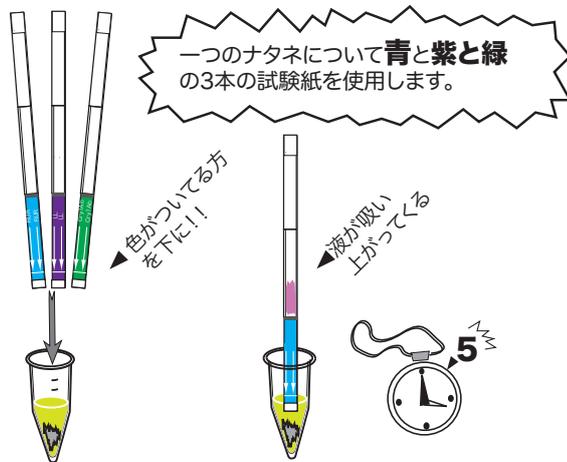
試験紙を袋から取り出す時は、毎回必ず手を洗ってからにします。



! 青色の試験紙がモンサント社の除草剤ラウンドアップ耐性コーン検出用
 紫色の試験紙が Bayer クロップサイエンス社の除草剤バスタ耐性コーン検出用
 緑色の試験紙がモンサント社の殺虫毒素 (Cry1Ab) 生成型コーン検出用

7, 試験紙を入れる

試験紙をチューブに差し込みます。
 差し込む向きに注意します。
 時計を見ながらちょうど5分間待ちます

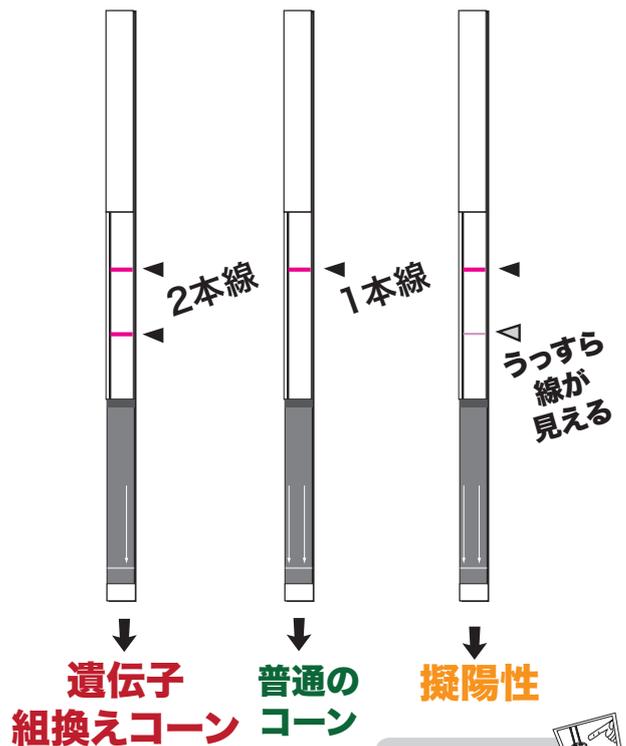


8, 判定をする

試験紙にできた赤い線の数を数えます。
 線が2本あると遺伝子組換えコーンとなります。
 線が1本だけだと普通の大豆となります。

*このキットで全ての遺伝子組み換えコーンを検出できるわけではありません。

例: 殺虫毒素生成型はCry1Ab以外の生成毒素を作る品種があり、それらは検出できない。



もし可能なら結果はカメラに撮っておきます。

